第33回 日本運動生理学会大会

The 33rd Annual Meeting of
Japan Society of Exercise and Sports Physiology



ウェルビーイングと コンディショニング

会期 2025年 7月12日(土)・13日(日)

会場 東海大学湘南キャンパス

大会長 八田 有洋 東海大学体育学部 生涯スポーツ学科長 教授

主催 日本運動生理学会

共催 東海大学体育学部
東海大学大学院体育学研究科
東海大学スポーツ医科学研究所

第33回 The 33rd Annual Meeting of
Japan Society of Exercise and Sports Physiology

日本運動生理学会大会

プログラム・抄録集

ウェルビーイングと コンディショニング

会　期：2025年7月12日(土)・13日(日)

会　場：東海大学湘南キャンパス

大会長：八田 有洋　東海大学体育学部 教授

主　催：日本運動生理学会

共　催：東海大学体育学部
東海大学大学院体育学研究科
東海大学スポーツ医科学研究所

第33回 日本運動生理学会大会 事務局

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目
東海大学体育学部競技スポーツ学科
事務局長：丹治 史弥
E-mail : jsesp33.tokai@gmail.com

INDEX

第33回日本運動生理学会大会 大会長挨拶 …… 1

第33回日本運動生理学会大会 大会役員 …… 2

会場までのアクセス …… 3

構　内　図 …… 4

会場案内図 …… 5

大会参加者へのお知らせとご案内 …… 6

発表者、座長へのお知らせとご案内 …… 8

第33回日本運動生理学会大会奨励賞 …… 11

学会誌英文抄録作成要領 …… 12

健康運動指導士・同実践指導者の
登録更新のための講習会開催のご案内 …… 13

大会日程表 …… 14

プログラム …… 16

抄　　録

- 大会長講演 …… 28
- 特別講演 …… 29
- 教育講演 …… 31
- シンポジウム …… 36
- キーノートレクチャー …… 70
- 一般発表演題 …… 74

索　　引 …… 90

協賛・寄付のご紹介 …… 93

第33回日本運動生理学会大会

大会長挨拶

第33回日本運動生理学会大会開催にあたり



大会長　八田 有洋
東海大学 体育学部 教授

この度、令和7（2025）年7月12日（土）、13日（日）の両日、東海大学湘南キャンパスにおいて第33回日本運動生理学会大会を開催するにあたり、ご挨拶申し上げます。

日本運動生理学会の目的は、運動・スポーツの生理学に関する専門的、学術的研究の発展を図るとともに会員相互の連絡と関連諸機関との協力を保ち、広く知識の交流を求めることにあります。学会大会は1993年7月に開催された第1回大会（筑波大学）から30年以上、一度も途切れることなくコロナ禍も乗り越えて開催されて参りました。

本大会はこれまでの伝統と趣旨を継承し、人生100年という新しい時代にすべての人が心身ともに良好な状態を得られることを願い『ウェルビーイングとコンディショニング』をメインテーマに掲げました。本大会が子どもから中高年者まで幅広いライフステージに応じた身体活動や運動がもたらす効果について、さらにアスリートの競技力向上と障害予防やリハビリテーションも含めたトータルコンディショニングについて運動生理学のみならず、医学系やスポーツ科学全般まで幅広い分野の研究者が集い活発に発表・討論できる機会になるものと確信しております。

特別講演1の金子文成先生には運動イメージや運動錯覚による脳内の身体表現（身体図式）の再構築と運動生理学への応用について、特別講演2の秦野伸二先生には神経難病の基礎医学的研究と遺伝学、分子生物学など幅広い学術的アプローチから身体の運動制御とそのメカニズムについてご講演いただきます。特別シンポジウムでは、東海大学のアスリート視点におけるサポートの実践と展望について紹介していただきます。その他、シンポジウム6演題、教育講演3演題、キーノートレクチャー2演題など魅力ある企画を用意し、参加者の皆様にとりまして有意義な大会となるよう準備を進めて参りました。一般演題発表では若手研究者を対象に優秀な研究発表に大会奨励賞を授与いたします。本大会はノーネクタイやノージャケットなどのクールビズスタイルを推奨いたします。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

最後に、共催いただきました東海大学体育学部、東海大学大学院体育学研究科とスポーツ医科学研究所をはじめ丹治史弥事務局長と事務局の山田知美さん、本学大会関係者のご尽力に感謝するとともにご支援・ご協賛を賜りました多くの団体、企業の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和7年6月 吉日

第33回日本運動生理学会大会

大 会 役 員

名誉大会長

内山 秀一（東海大学 体育学部 体育学科）

大会顧問

山田 洋（東海大学 体育学部 体育学科）

松浪 稔（東海大学 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科）

大 会 長

八田 有洋（東海大学 体育学部 生涯スポーツ学科）

事務局長

丹治 史弥（東海大学 体育学部 競技スポーツ学科）

実行委員会委員（50音順）

五十嵐 健太（東海大学スポーツ医科学研究所）

小澤 悠（東海大学スポーツ医科学研究所）

清水 幹弥（東海大学スポーツ医科学研究所）

野坂 俊弥（東海大学 体育学部 生涯スポーツ学科）

松下 宗洋（東海大学 体育学部 生涯スポーツ学科）

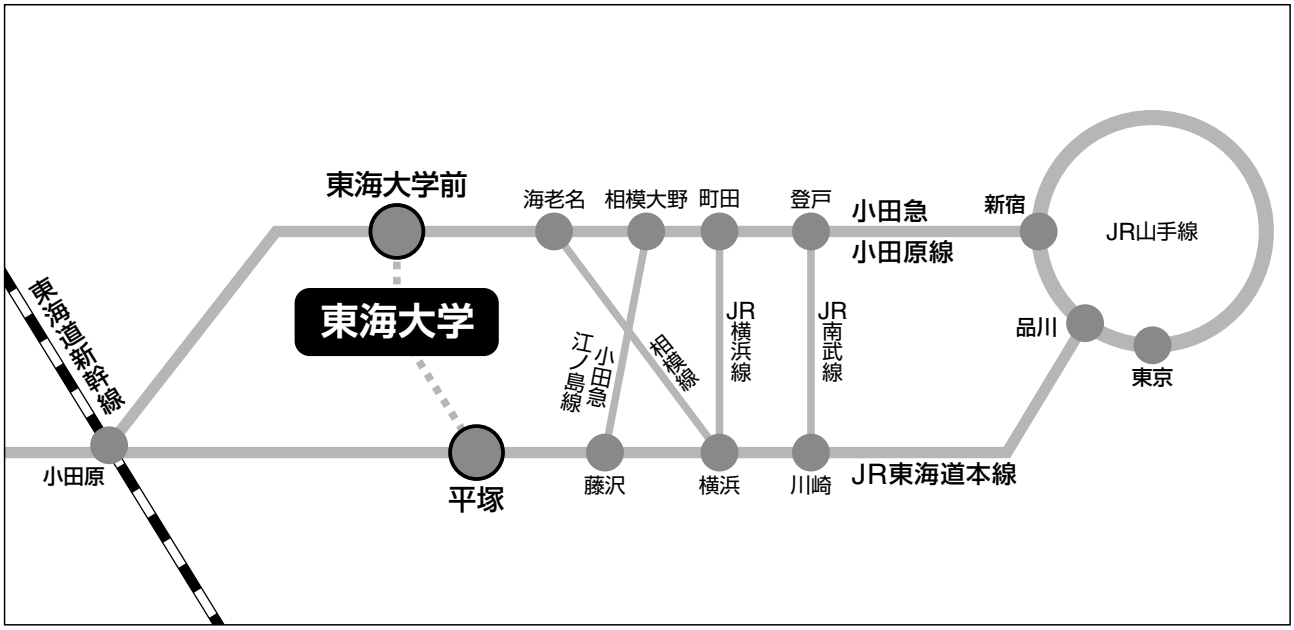
山田クリス孝介（東海大学スポーツ医科学研究所）

理 事 会

日 時：令和7年7月11日（金曜日）19:30～

会 場：アパホテル（伊勢原駅前）2F 会議場
〒259-1132 神奈川県伊勢原市桜台1-11-3
TEL：0463-91-6988
小田急小田原線「伊勢原駅」南口、徒歩2分

会場までのアクセス



東海大学 湘南キャンパス

所在地：〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

交通アクセス

●**小田急電鉄「東海大学前」駅下車**（新宿より快速急行約70分、小田原より約25分）

徒歩約15分

『秦野駅行き』『下大槻団地行き』バス（約5分）で「東海大学北門」下車すぐ

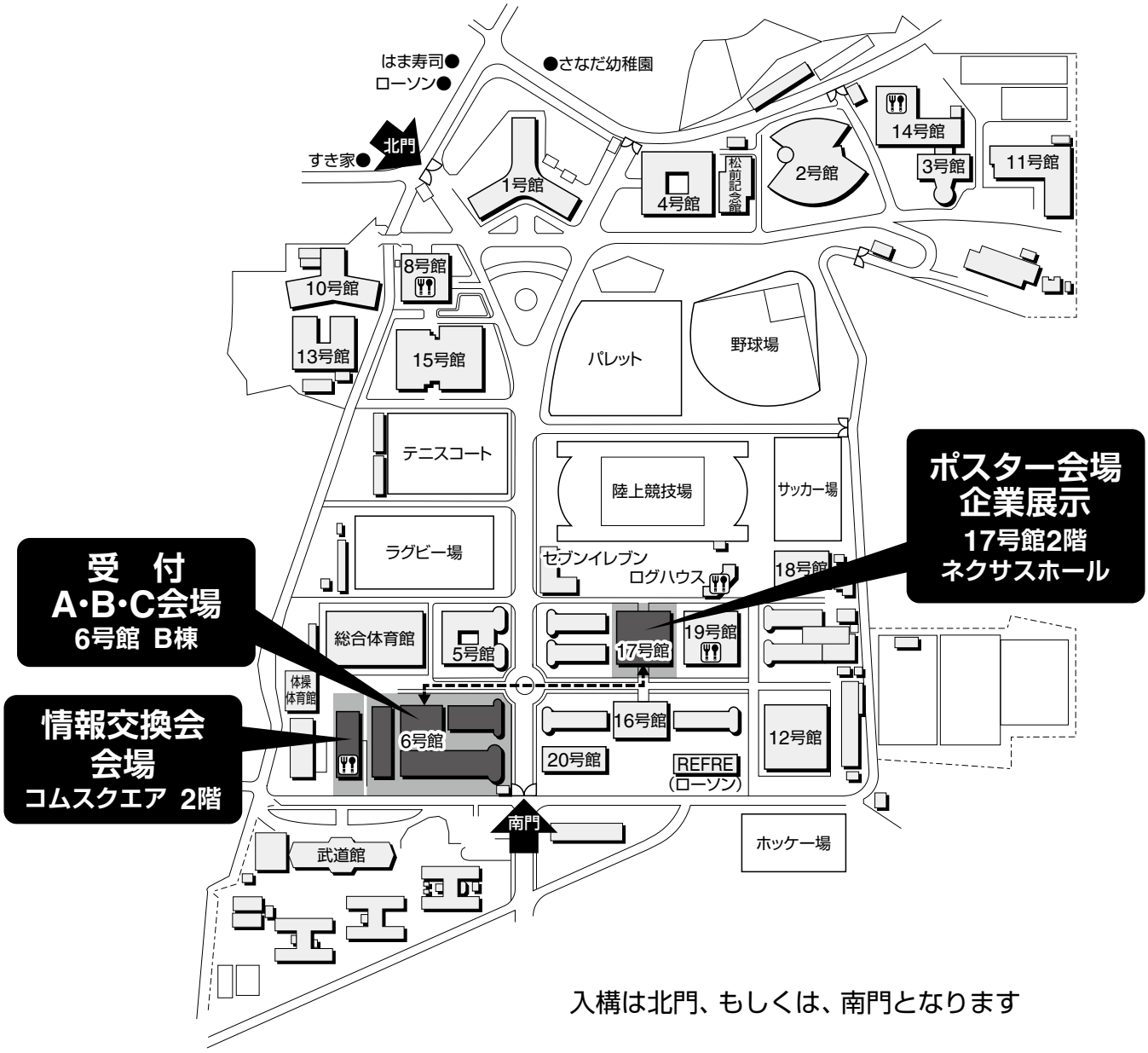
『平塚駅北口行』バス（約5分）で「東海大学1号館前」下車すぐ

●**JR東海道線「平塚」駅下車**

平塚駅北口から『秦野駅行き』バス（約30分）で「東海大学正門前」下車
徒歩約5分

平塚駅北口から『東海大学前駅南口行き』バス（約40分）で「東海大学1号館前」下車すぐ

構　内　図



入構は北門、もしくは、南門となります

学 食

ログハウス（ふうりゅう）
8号館1階（バブレストラン）

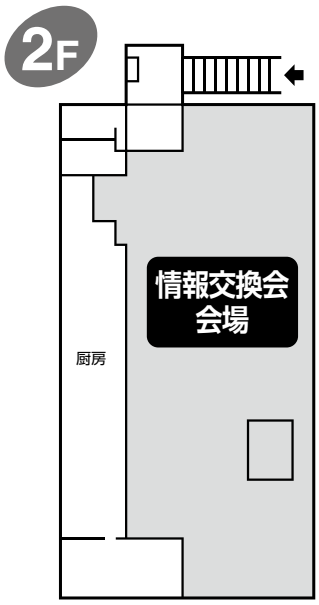
〈 7/13のみ営業 〉
コムスクエア（FAMILIA KITCHEN）
19号館1階（シダックス）
14号館1階（カフェラウンジ14）

コンビニ

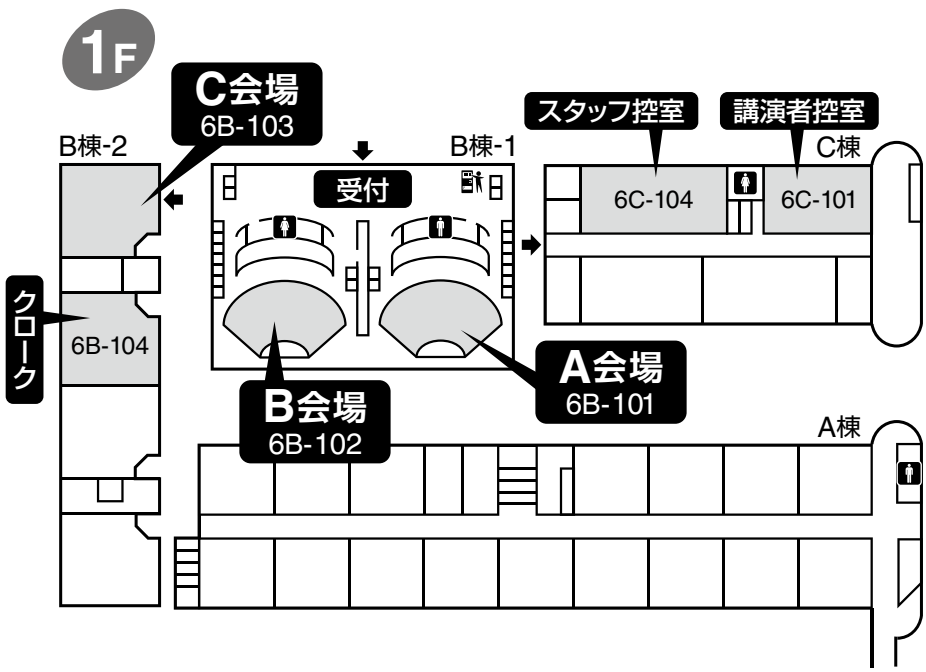
セブンイレブン（中央通り）
ローソン（16号館裏）〈7/12のみ営業〉

会場案内図

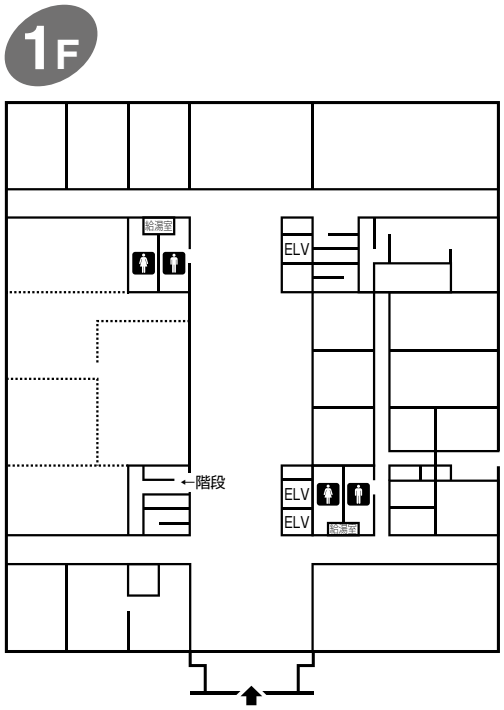
コムスクエア



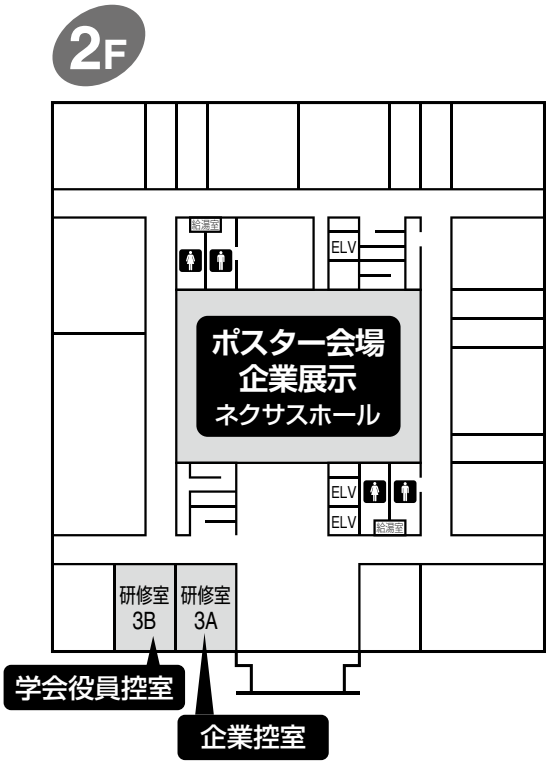
6号館 B棟・C棟



17号館



17号館



自販機：6号館B棟-1のホール（受付横）
コムスクエア外階段の下
17号館3階エレベーターホール

大会参加者へのお知らせとご案内

重要なお知らせ

- 会場へは公共交通機関を使用してお越しください。
- 東海大学構内は**全面禁煙**です。
- 大会会場内ではスマートフォンや携帯電話の電源はオフにするか、マナーモードにしてください。
- 会場内での撮影はご遠慮ください。SNS 等への発表内容の書き込みはお控えください。

受　付

事前参加登録者

- 学会非会員で事前参加登録者は総合受付にお越しください。参加費の領収書に不備があったため、正しい領収書を配布いたします。
- 事前に送付いたしました抄録集に同梱した大会公式ネームカードにあらかじめ、お名前、ご所属をご記入ください。大会当日に総合受付付近にて配布するネームカードホルダーに入れ、大会会場にいる際は、常に外から見えるように身につけてください。
- 一般演題（口頭発表・ポスター発表）発表者、大会企画プログラム発表者、座長の先生方は総合受付にて発表者・座長受付を行ってください。

当日参加登録者

- 事前登録せずに学会大会に参加される方は、大会当日に総合受付にて受付を行ってください。
- 当日受付の開始時刻は以下の通りです。

  1日目（7月12日）　9：30
  2日目（7月13日）　8：50

- 当日受付にて大会参加費（正会員：9,000円、非会員：10,000円、学生：4,000円、特別臨時会員：4,000円）をお支払いください。お釣りのないようにご準備ください。
- 受付付近の記名台にてネームカードにお名前・ご所属をご記入いただき、ネームカードホルダーにいれ、大会会場にいる際は、常に外から見えるように身につけてください。

※特別臨時会員とは、日本学術会議の協力学術研究団体に登録されている学会等の正会員の方が臨時で大会に参加するための会員種別です。筆頭演者・共同演者として発表はできません。当日、関連学会員である証明書をお持ちください。

※学生の方は、大会受付時に学生証の提示をお願いいたします。学生証を提示できない場合は、正会員または非会員扱いとなりますのでご留意ください。

発表会場

発表会場は以下の通りです。

A 会場：6号館 B 棟101教室
B 会場：6号館 B 棟102教室
C 会場：6号館 B 棟103教室
ポスター会場：17号館2階ネクサスホール

情報交換会

- 大会1日目（7月12日）の18：30～20：30にコムスクエアにて情報交換会を開催します（18：00開場予定）。皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。
- 事前に参加登録をされた方は参加確認のため総合受付までお越しください。
- 当日参加希望者は総合受付にて15：00までに参加費（一般：5,000円、学生：2,000円）をお支払いの上、ご参加ください。

昼　食

- 本大会では、ランチョンセミナーはございません。昼食は各自でご準備ください。
- 構内に学食およびコンビニエンスストアがございますが、営業が異なりますのでご留意ください。

大会1日目（7月12日）

学　食：8号館、ログハウス
コンビニエンスストア：中央通りセブンイレブン、16号館ローソン

大会2日目（7月13日）

学　食：8号館、14号館、19号館、ログハウス、コムスクエア
コンビニエンスストア：中央通りセブンイレブン

会場での飲食について

- ポスター会場（17号館2階ネクサスホール）は飲食できません。ご了承ください。
- 総合受付付近、ポスター会場入口付近にはウォーターサーバーを設置する予定です。マイボトルをご持参の上、ご利用ください。

クローク

- 荷物の預かり場所は、6号館Ｂ棟104教室に設けます。手荷物を預かる際にお渡しする引換券を紛失しないようにご注意ください。
- 貴重品につきましては、ご自身で管理してくださいますようお願いいたします。
  なお、クロークでの荷物のお預かり・お引き取り時間は以下の通りです。

7月12日（土） 9：30～18：30
7月13日（日） 8：50～17：00

発表者、座長へのお知らせとご案内

一般演題発表者、座長へのお知らせとご案内

一般演題：口頭発表

発表方法について

- 原則、ご自身のパソコンで発表を行っていただきます。
- 発表者間に2分間の入れ替え時間を設けております。演台上に用意されている HDMI ケーブルを発表者ご自身で PC に接続し、スライドの投影をお願いいたします。
- HDMI 端子がない PC をお持ちの方は、ご自身で HDMI に接続できる変換ケーブルをご準備いただきますようお願いいたします。
- 万が一、ご自身の PC での発表が難しい方は、7月4日（金）17：00までに大会事務局（jsesp33.tokai@gmail.com）までご連絡ください。
- スライドのサイズは16：9を推奨いたします。
- 発表者は、利益相反（Conflict of Interest：COI）に関するガイドラインに則り、COI 状態についての情報を適切な形式で申告・開示してください。

会場での試写について

- 各会場のセッションが入っていない時間に試写をお願いします。
- 7月12日（土）の下記の時間帯には大会スタッフが会場に待機しておりますので、ご発表前の試写をお勧めいたします。

  A 会場 9：30～9：50／**B 会場** 12：20～13：00／**C 会場** 12：20～13：00
- A 会場と B 会場で試写機器は同一ですので、A 会場でご発表予定の方も、B 会場にて同様の環境で試写を行っていただけます。

当日の発表について

- **発表時間**：1演題10分間（発表7分、質疑応答3分）
- 演台上にレーザーポインタを用意します。
- 進行は座長の指示に従ってください。発表時のスライド操作はご自身でお願いします。
- 発表終了後は速やかにご自身の PC から HDMI ケーブルを取り外していただき、次の演者の発表準備が円滑に進むようご配慮をお願いいたします。

発表者および座長の先生方へ：

総合受付の「発表者・座長受付」で受付の手続きをお願いします。セッション開始予定の約10分前には会場に入場し、会場の前方席におかけください。

一般演題：ポスター発表

ポスターの作成について

- ポスターは、A0用紙（841㎜×1,189㎜）縦置きを基本として作成してください。縦方向には余裕がありますので、1～2割長くなっても掲示は可能です。
- ポスターは最上部に演題・研究発表者名・所属を、その下に背景、目的、方法、結果、考察、結論をまとめてください。
- 発表者は、利益相反（Conflict of Interest：COI）に関するガイドラインに則り、COI状態についての情報を適切な形式で申告・開示してください

ポスターの掲示、受付

- 演題番号は大会事務局が掲示いたします。ポスター貼り付け用のマグネットは大会事務局で用意いたします。
- **掲示開始**：7月12日（土）10：00から貼ることができます。翌日のポスター発表時間終了まで継続して掲示していただけます。
- 発表者は発表時間までに総合受付の「発表者・座長受付」にて受付を行ってください。
- 「発表者・座長受付」にて発表者用のリボンを必ず受け取ってください。

ポスターの発表、撤去について

- **発表時間**：**演題番号奇数の発表者**　7月12日（土）14：20～15：20
  演題番号偶数の発表者　7月13日（日）13：40～14：40
- **発表方法**：責任着座制。ご自身のポスターの前に待機いただき、発表時間内は自由討論してください。座長は付きません。
- 発表者の方は自由討論時間内には必ずリボンをつけてください。
- 7月13日（日）14：40以降に随時、撤去をお願いします。16：30を過ぎた場合は学会大会側で撤去・廃棄します。

大会企画プログラム（特別講演、教育講演、シンポジウム、キーノートレクチャー）発表者、座長へのお知らせとご案内

発表方法について

- 原則、ご自身のパソコンで発表を行っていただきます。
- 演台上に用意されている HDMI ケーブルを発表者ご自身で PC に接続し、スライドの投影をお願いいたします。
- HDMI 端子がない PC をお持ちの方は、ご自身で HDMI に接続できる変換ケーブルをご準備いただきますようお願いいたします。
- 万が一、ご自身の PC での発表が難しい方は、7月4日（金）17：00までに大会事務局（jsesp33.tokai@gmail.com）までご連絡ください。
- スライドのサイズは16：9を推奨いたします。

試写について

- 下記の時間帯に大会スタッフが会場に待機しておりますので、出力をご確認されたい方は、ご発表前の試写をお願いいたします。

  7月12日（土）
  A 会場　9：30～9：50、15：00～15：30
  B 会場　12：20～13：00、15：00～15：30
  C 会場　12：20～13：00、15：00～15：30

  7月13日（日）
  A 会場　9：00～9：20、12：30～13：00
  B 会場　10：00～10：30、12：30～13：00

- A 会場と B 会場で試写機器は同一ですので、A 会場でご発表予定の方も、B 会場にて同様の環境で試写を行っていただけます。

当日の発表について

- 座長の指示に従い、発表をお願いします。発表時のスライド操作はご自身でお願いします。
- 演台上に HDMI ケーブルとレーザーポインタを用意します。ご自身の PC を HDMI ケーブルに繋げて発表を行ってください。
- 講演者間の打ち合わせは講演者控室（6号館6C-102教室）をご利用ください。

発表者および座長の先生方へ：

総合受付の「発表者・座長受付」で受付の手続きをお願いします。セッション開始予定の約10分前には会場に入場し、会場の前方席におかけください。

第33回日本運動生理学会大会奨励賞

本大会では、将来の運動生理学分野をリードする若手研究者の育成を図るため、優れた研究発表に対し、「大会奨励賞」を授与します。対象者は2025年4月1日時点で35歳以下の者（36歳以上でも大学院生であれば対象となる）であり、発表演題登録時に「大会奨励賞」に応募された方に限ります。応募された研究課題を対象に当日の発表内容について厳正に審査し、大会奨励賞を選考いたします。

なお、審査結果は大会二日目の7月13日（日）12:00に総合受付に掲示し、16時20分よりA会場（6B-101）にて表彰式を行います。受賞者は表彰式に必ず出席してください。

学会誌英文抄録作成要領

一般演題の筆頭著者は、学会英文誌（Advances in Exercise and Sports Physiology）に掲載用の英文抄録を作成し、以下の要領で提出してください。

- 学会誌用原稿のフォーマット（Word 形式）をダウンロードして各自作成してください。
- 制作後のワードファイルを［演題番号＋筆頭演者英語名+doc あるいは docx］のファイル名（例：A1-1-Kazuki Uemichi.docx）で保存してください。
- ファイルを下記メールアドレス宛に送付してください。その際、件名に「演題番号と筆頭演者名」（例：A1-1 上道和毅）を記入してください。
- ネイティブスピーカーによる英文チェックを済ませた上で提出してください。

提出期限：2025年9月5日（金）正午

送 付 先：jsesp33.tokai@gmail.com

見本を参考にして制作してください。

◆**演題番号**：ご自分の演題番号を確認してください。
（Arial Black -12ポイント）

◆**演題名**：最初の1文字のみ大文字、以降は固有名詞以外を小文字。
（Times New Roman（太字）-12ポイント）

◆**氏　名**：「Kazuki Uemichi」のようにフルネームで記載し、氏名間は「, 」で区切ってください。
（Times New Roman -10ポイント）

◆**所　属**：最初の一文字のみを大文字としてください。名称が長い場合は簡略化しても構いません。所属機関が複数ある場合は、名前の右肩に番号を記入し、所属機関を番号順に明記してください。
（Times New Roman（斜体）-10ポイント）

◆**本　文**：Purpose、Methods、Results、Discussion（またはResults and Discussion）等の項目で構成してください。本文の最後にKey words（3～5words）を記入してください。
（Times New Roman -10ポイント）

〈学会誌見本〉

No. A1-1 **Effects of mTORC1 inhibition on mitochondrial dynamics during denervation or calorie restriction-induced muscle atrophy**

Kazuki Uemichi[1], Takanaga Shirai[2], Tomohiro Iwata[1], Riku Tanimura[1], Tohru Takemasa[2]

[1] Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, [2] Faculty of Health and Sports Sciences, University of Tsukuba

Purpose: The purpose of this study was to determine the effects of mTORC1 inhibition on skeletal muscle mitochondrial dynamics during denervation or calorie restriction-induced atrophy.

Methods: Seven-week-old ICR (Institute of Cancer Research) mice were subjected to 14 days of denervation or calorie restriction combined with the administration of the mTORC1 inhibitor rapamycin.

Results: Our results showed that mTORC1 inhibition suppressed the phosphorylation of DRP1, a mitochondrial fission-related protein, in denervated muscle, and reduced DRP1 expression in calorie-restricted muscle. Calorie restriction-induced mitochondrial fragmentation was partially suppressed by mTORC1 inhibition.

Discussion: Our results suggest that mTORC1 may be involved in the enhancement of mitochondrial fission during denervation or the maintenance of DRP1 activity during calorie restriction. Skeletal muscle mitochondrial protein synthesis was reported to be unaffected by rapamycin (Philip et al., 2015). According to our findings, mitochondrial protein synthesis may have increased to compensate for the reduction in mTORC1-mediated translation during calorie restriction by rapamycin administration.

Key words: Skeletal muscle atrophy, mTORC1, Mitochondrial dynamics

健康運動指導士・同実践指導者の登録更新のための講習会開催のご案内

本大会は、健康運動指導士・健康運動実践指導者（公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定）の登録更新に必要な履修単位を取得できる講習会として認定されております（認定番号256405）。学会大会プログラムを聴講することにより、講義3.0単位を取得できます。

健康運動指導士・健康運動実践指導者の資格を所有しており、学術総会に参加される方は、認定講習会受講証明書の発行に必要となりますので、必ず健康運動指導士証もしくは健康運動実践指導者証をご持参ください。ご本人確認ができない場合、証明書をお渡しできない場合があります。

また学術総会に参加し、演者、共同研究者として発表した場合、学会に参加した単位とは別に2単位が認定されます。ただし、演者、共同研究者として発表した場合の単位認定については、ご本人から（公財）健康体力づくり事業財団への申請手続きが必要となりますので、詳細は以下のホームページをご確認ください。

〈参　考〉

公益財団法人健康体力づくり事業財団：
学会大会・学術大会参加における個別認定申請について
https://www.health-net.or.jp/shikaku/syoyuusya/pdf/r6_gakkaitani_kojin.pdf?20240924

日　程　表

1日目　2025年7月12日土

	A 会 場 6B-101	B 会 場 6B-102	C 会 場 6B-103	ポスター会場・機器展示 17号館ネクサスホール
9:30～	受付開始［総合受付］			
10:00～10:10	開会式			10:00～ ポスター掲示
10:10～10:40	大会長講演 古くて新しい脳波と筋電図 ―運動準備期における感覚運動処理系―	座長：足立 哲司 演者：八田 有洋		
10:50～12:10	特別シンポジウム 多元的データに基づくアスリートサポート ～TOKAI SPorto Med Hub の立ち上げ～ 座長：酒井 大輔 演者：Jordy Schol、小澤 秀樹、池田 仁惠、阿部 智史、酒井 大輔、相馬 葉月	10:50～12:10 シンポジウム1 ウェルビーイングの向上をめざす性差研究の最前線 座長：須永 美歌子 演者：高橋 謙也、山崎 広貴、林 七虹、亀本 佳世子		
12:20～13:00	総会・評議員会			
13:10～14:10	口頭発表1 A-1～A-5 座長：中里 浩一	口頭発表2 B-1～B-5 座長：麓 正樹	口頭発表3 C-1～C-4 座長：下田 政博	
14:20～15:20				ポスター発表 （奇数番号）
15:30～16:30	教育講演1 脳科学×ICTでアスリート脳を理解し鍛える 座長：山田 洋 演者：木村 聡貴	15:30～16:30 教育講演2 運動で脳をととのえる ―運動×認知機能研究のこれまでとこれから― 座長：木田 哲夫 演者：紙上 敬太	15:30～16:30 教育講演3 ピラティスとウエルビーイング 座長：田中 喜代次 演者：高田 香代子	
16:40～18:00	シンポジウム2 ウェルビーイングを脅かすピットフォール：暑熱環境と頭部外傷のコンディショニング 座長：笹木 正悟 演者：細川 由梨、東本 翼、大伴 茉奈	16:40～18:00 シンポジウム3 リハビリテーション分野における最新技術活用の可能性 座長：東 登志夫 演者：東 登志夫、磯 直樹、桐本 光	16:40～18:00 シンポジウム4 データでつなぐスポーツと健康 ―科学的根拠に基づく戦略と実装 座長：甲斐 裕子 演者：山本 義郎、松下 宗洋、甲斐 裕子	
18:30～20:30	情報交換会（会場：コムスクエア）			

2日目　2025年7月13日(日)

	A 会場	B 会場	C 会場	ポスター会場・機器展示
	6B-101	6B-102	6B-103	17号館ネクサスホール
9:00	9:20～10:20 **特別講演1** **脳内の身体表現と生理学** **ー身体運動への応用の観点からー** 座長：木塚 朝博 演者：金子 文成			9:20～ ポスター掲示
10:00				
11:00	10:30～11:30 **特別講演2** **神経難病の基礎研究を通じた身体運動制御の分子・細胞・生理学的機構の理解** 座長：内山 秀一 演者：秦野 伸二			
12:00	11:40～12:40 **キーノートレクチャー1** **表面筋電図計測の基礎と応用** 座長：齋藤 健治 演者：齋藤 健治 富田 彩	11:40～12:40 **キーノートレクチャー2** **認知症発症予防における動脈機能の役割：近位大動脈～脳動脈連関** 座長：前田 清司 演者：菅原 順		
13:00				13:40～14:40 **ポスター発表** （偶数番号）
14:00				
15:00	14:50～16:10 **シンポジウム5** **なぜ運動は海馬の機能を高めるのか？** ～海馬を知り、次世代研究を創造する～ 座長：西島 壮 演者：北西 卓磨 土田 竜貴 船橋 大介	14:50～16:10 **シンポジウム6** **運動／行動を支える多階層脳システムの理解に向けて** 座長：瀬戸川 将 青木 祥 演者：瀬戸川 将 雨宮 誠一朗 青木 祥		14:40～ ポスター撤去
16:00	16:20～16:30 **表彰式・閉会式**			
17:00				

プログラム

大会長講演

7月12日（土） 10：10～10：40　A会場（6B-101）

座長：足立 哲司（大阪体育大学 スポーツ科学部）

古くて新しい脳波と筋電図
―運動準備期における感覚運動処理系―

八田 有洋（東海大学 体育学部 生涯スポーツ学科）

特別講演1

7月13日（日） 9：20～10：20　A会場（6B-101）

座長：木塚 朝博（筑波大学 体育系）

脳内の身体表現と生理学
―身体運動への応用の観点から―

金子 文成（東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域、
慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室）

特別講演2

7月13日（日） 10：30～11：30　A会場（6B-101）

座長：内山 秀一（東海大学 体育学部）

神経難病の基礎研究を通じた
身体運動制御の分子・細胞・生理学的機構の理解

秦野 伸二（東海大学 医学部 医学科 基礎医学系生体機能学）

教育講演1

7月12日（土） 15：30～16：30　A会場（6B-101）

座長：山田 洋（東海大学 体育学部）

脳科学× ICT でアスリート脳を理解し鍛える

木村 聡貴（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

教育講演2

7月12日（土） 15：30～16：30　B会場（6B-102）

座長：木田 哲夫（愛知県医療療育総合センター発達障害研究所）

運動で脳をととのえる
―運動×認知機能研究のこれまでとこれから―

紙上 敬太（中京大学 教養教育研究院）

教育講演3

7月12日（土） 15：30～16：30　C会場（6B-103）

座長：田中 喜代次（筑波大学 名誉教授、THF）

ピラティスとウエルビーイング

高田 香代子（一般社団法人 ピラティスアライアンス）

特別シンポジウム

7月12日（土） 10：50～12：10　A会場（6B-101）

座長：酒井 大輔（東海大学 医学部 外科学系整形外科学）

「多元的データに基づくアスリートサポート ～TOKAI SPorto Med Hubの立ち上げ～」

SS-1 Risk factors and management strategies for fatigue fractures in adult athletes：a systematic review

Jordy Schol　Tokai University School of Medicine. Japan

SS-2 国民スポーツ大会メデイカルチエックと血液検査所見のフィードバックについて

小澤 秀樹　東海大学 医学部 総合内科、神奈川県スポーツ協会 スポーツ医科学委員会

SS-3 女性アスリート特有の課題と東海大学女性アスリート支援

池田 仁惠　茅ケ崎中央病院ウイメンズセンター 婦人科、
湘南医療大学 保健医療学部、東海大学 医学部 専門診療学系産婦人科学

SS-4 eスポーツプレーヤーに特有の課題と、その医療サポート体制について

阿部 智史　医療法人救友会、東海大学 総合内科

SS-5 バイオモーション×多次元生体データで描くアスリート支援の未来図

酒井 大輔　東海大学 医学部 外科学系整形外科学

SS-6 TOKAI SPortoMed Hub 立ち上げの苦労と展望

相馬 葉月　東海大学 医学部 外科学系整形外科学 特定研究員、
東海大学スポーツメディカルコーディネーター

シンポジウム1

7月12日（土） 10：50～12：10　B会場（6B-102）

座長：須永 美歌子（日本体育大学 児童スポーツ教育学部）

「ウェルビーイングの向上をめざす性差研究の最前線」

S1-1 性腺機能低下症による代謝変化と持久的トレーニングの効果

高橋 謙也　Fralin Biomedical Research Institute at VTC

S1-2 骨格筋量を含む体組成の決定機構と性差

山崎 広貴　帝京大学 医学部 内科学講座

S1-3 エネルギー不足に伴う鉄欠乏：鉄代謝を制御するヘプシジンの関与

林 七虹　大阪公立大学 都市健康・スポーツ研究センター

S1-4 食欲・食行動の性差　―女性ホルモンと運動の影響―

亀本 佳世子　日本体育大学

シンポジウム2

7月12日（土） 16：40～18：00　A会場（6B-101）

座長：笹木 正悟（東海大学 体育学部 競技スポーツ学科、東海大学大学院 体育学研究科）

「ウェルビーイングを脅かすピットフォール：労作性熱中症と頭部外傷に関するコンディショニング」

S2-1 労作性熱中症（生理学的機序からの知見）

細川 由梨　早稲田大学スポーツ科学学術院

S2-2 スポーツ関連脳振盪における生理学的機序とコンディショニング：血圧および脳循環調節機能に着目して

東本 翼　国立研究開発法人産業技術総合研究所 セルフケア実装研究センター

S2-3 頭部外傷の現状と課題

大伴 茉奈　桐蔭横浜大学 スポーツ科学部

シンポジウム3

7月12日（土） 16：40～18：00　B会場（6B-102）

座長：東 登志夫（長崎大学 生命医科学域保健学系）

「リハビリテーション分野における最新技術活用の可能性」

S3-1 リハビリテーション分野における最新テクノロジーの応用と今後の展望

東 登志夫　長崎大学 生命医科学域保健学系

S3-2　リハビリテーションにおける Virtual Reality の応用について

磯 直樹　　東京家政大学 健康科学部

S3-3　AI ロボットと迷走神経刺激による
デュアル・クローズドループ型手指機能訓練法の開発

桐本 光　　広島大学大学院 医系科学研究科 感覚運動神経科学研究室

シンポジウム4

7月12日（土）16：40～18：00　C 会場（6B-103）

座長：甲斐 裕子（公益財団法人明治安田厚生事業団 体力医学研究所）

「データでつなぐスポーツと健康
―科学的根拠に基づく戦略と実装」

S4-1　スポーツにおけるデータサイエンス

山本 義郎　　東海大学 理学部

S4-2　運動生理学と運動疫学の役割　―研究デザインや因果推論の視点から

松下 宗洋　　東海大学 体育学部 生涯スポーツ学科

S4-3　エビデンス・プラクティスギャップは埋められるのか？　―実装科学への挑戦

甲斐 裕子　　公益財団法人明治安田厚生事業団 体力医学研究所

シンポジウム5

7月13日（日）14：50～16：10　A 会場（6B-101）

座長：西島 壮（東京都立大学大学院 人間健康科学研究科）

「なぜ運動は海馬の機能を高めるのか？
～海馬を知り、次世代研究を創造する～」

S5-1　海馬が担う空間認識

北西 卓磨　　東京大学大学院 総合文化研究科

S5-2　空間認知は海馬への運動効果を媒介するか

土田 竜貴　　東京都立大学大学院 人間健康科学研究科

S5-3　身体活動量の増加は海馬機能を向上させる必須条件か

船橋 大介　　白鴎大学 教育学部

シンポジウム6

7月13日（日） 14：50～16：10　B会場（6B-102）

座長：瀬戸川 将（大阪公立大学大学院 医学研究科 神経生理学）
青木 祥（東北大学大学院 生命科学研究科）

「運動／行動を支える多階層脳システムの理解に向けて」

S6-1　行動の自動化を支える脳広域ネットワークの動的再編

瀬戸川 将　　大阪公立大学大学院 医学研究科 神経生理学

S6-2　行動の選択と制御における記憶システム間の動的調節

雨宮 誠一朗　理化学研究所脳神経科学研究センター 神経回路・行動生理学研究チーム

S6-3　動きの順序を覚える脳内メカニズム

青木 祥　　東北大学大学院 生命科学研究科

キーノートレクチャー1

7月13日（日） 11：40～12：40　A会場（6B-101）

座長：齋藤 健治（名古屋学院大学 スポーツ健康学部）

KL1　表面筋電図計測の基礎と応用

齋藤 健治　　名古屋学院大学 スポーツ健康学部
富田 彩　　名古屋学院大学 スポーツ健康学部

キーノートレクチャー2

7月13日（日） 11：40～12：40　B会場（6B-102）

座長：前田 清司（早稲田大学 スポーツ科学学術院）

KL2　認知症発症予防における動脈機能の役割：近位大動脈～脳動脈連関

菅原 順　　国立研究開発法人産業技術総合研究所

一般演題・口頭発表　プログラム

7月12日（土）

口頭発表1

13：10～14：10　A会場（6B-101）

座長：中里 浩一（日本体育大学）

A-1　局所温熱刺激による筋細胞内 H_2O_2 レベルの変化

狩野 遼太郎　電気通信大学大学院、日本学術振興会

A-2　可逆的な酸化的修飾が不活動に伴う筋原線維の能動的および受動的張力低下に及ぼす影響

渡邊 大輝　大阪体育大学大学院 スポーツ科学研究科

A-3　ラット発育期骨格筋に特徴的な細胞内カルシウムイオン恒常性の制御機構

田渕 絢香　電気通信大学 情報理工学研究科

A-4　食餌制限が伸張性収縮による筋損傷・再生プロセスに及ぼす影響

馬場 浩平　電気通信大学大学院 情報理工学研究科 基盤理工学専攻

A-5　グルコース6リン酸脱リン酸化酵素の強制発現が C2C12 筋管細胞に与える影響

川瀬 桜子　日本体育学大学院 体育学研究科

口頭発表2

13：10～14：10　B会場（6B-102）

座長：麓 正樹（東京国際大学 人間社会学部）

B-1　網様体脊髄路が伸張反射制御に果たす機能的役割の解明：大音響刺激を用いた手法の開発とその応用

杉野 広尭　慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科

B-2　思春期特発性側弯症患者と健常者の立位姿勢保持能力の比較

清水 結　東海大学 医学研究科 医科学専攻

B-3　間欠的な低酸素曝露が足関節底屈力に及ぼす影響

波多野 慶　ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター

B-4　高状態不安時における回避的教示が注意制御と知覚運動パフォーマンスに及ぼす効果

酒本 夏輝　清和大学

B-5　把持運動中の誤差を減少させる経皮的電気刺激法の検討

和坂 俊昭　名古屋工業大学 工学部

口頭発表3

13：10～14：10　C会場（6B-103）

座長：下田 政博（東京農工大学大学院農学研究院 健康アメニティ科学研究室）

C-1　3次元ハーモニック振動運動による身体機能および健康診断結果の変化について

鎌田 成香　医療法人桜十字 メディメッセ桜十字予防医療センター

C-2　インターハイ陸上競技種目のパフォーマンスに及ぼす暑熱環境および性差の影響

戸谷 敦也　大阪公立大学大学院 医学研究科 運動環境生理学教室、
大阪公立大学 都市健康・スポーツ研究センター

C-3　9日間の暑熱順化トレーニングがサラブレッドの乳酸代謝に及ぼす影響

北岡 祐　神奈川大学 人間科学部

C-4　運動教室、防災教室、運動×防災教室に参加する高齢者の体力および運動習慣

大槻 毅　流通経済大学 スポーツ健康科学部

一般演題・ポスター発表　プログラム

ポスター発表　　ポスター会場（17号館 ネクサスホール）

奇数番号：7月12日（土）14：20～15：20　　偶数番号：7月13日（日）13：40～14：40

P-1　アルロースとロイシンの共投与が
力学的過負荷によるマウス骨格筋の肥大に与える影響

田島 弘基　名城大学

P-2　筋損傷後のアイシング処置に伴う骨格筋の応答変化における分子基盤の探索

芝口 翼　金沢大学 国際基幹教育院

P-3　運動パフォーマンス評価のためのヘッドセット型脳波計による
周辺視知覚の評価

水野 嶺　東海光学株式会社

P-4　単純な手指動作時の体性感覚系の変化における選択性：MEG 研究

木田 哲夫　愛知県医療療育総合センター 発達障害研究所 神経情報研究部 高次脳機能研究室、
自然科学研究機構 生理学研究所 脳機能計測・支援センター 生体機能情報解析室

P-5　長期自発運動は社会的交流による共感性向上効果を増強する

北 一郎　東京都立大学 人間健康科学研究科

P-6　空間的に豊かな環境が成熟後のマウスの身体活動量と海馬機能に及ぼす影響：
幼少期の経験に着目した検討

船橋 大介　白鷗大学 教育学部

P-7　マットピラティス介入が等速性膝伸展・屈曲力に及ぼす効果

八田 有洋　東海大学 体育学部 生涯スポーツ学科

P-8　週1回のピラティス介入が中枢神経活動と気分に与える影響

福本 寛之　東京農工大学大学院 農学研究院

P-9　包括的エクササイズにおけるピラティスエクササイズがもたらす効果

矢野 琴弓　東海大学大学院 体育学研究科 体育学専攻

P-10　高強度インターバルトレーニングが
Go/NoGo 全身応答時間に及ぼす一過性の影響

加藤 雄一郎　平成国際大学 スポーツ健康学部

P-11　自転車走行レーンの幅が
高齢者における認知課題の反応時間と P300 に及ぼす影響：若年者との比較

下田 政博　東京農工大学大学院 農学研究院

P-12　ヘッドマウントディスプレイを用いた動的バランスの学習過程における
感覚入力の重みづけ

坂本 将基　熊本大学大学院 教育学研究科

P-13 腕立て伏せにおける手の位置と上肢および上肢帯の筋活動

齋藤 健治　名古屋学院大学

P-14 未熟練者へのヘッドマウントディスプレイを用いた
一人称視点映像フィードバックが運動学習に及ぼす即時効果

山田 洋　東海大学 体育学部、東海大学 スポーツ医科学研究所

P-15 野球のバッターの選球判断が打球速度に与える影響
―技術レベルとカウントにフォーカスして

八木原 諒　東海大学大学院 体育学研究科

P-16 最大下運動時の呼気ガス中アセトン排出量はエネルギー消費量と関係する

富田 彩　名古屋学院大学

P-17 C2C12筋細胞におけるイリシンの
IGF-I シグナルと BCAA 輸送体発現に及ぼす効果

金光 里莉子　神戸女子大学 家政学研究科 食物栄養学専攻

P-18 間欠高酸素暴露下の運動が
幼若期からトーレニングを積んだマウスの持久力向上に及ぼす効果

鈴木 淳一　北海道教育大学 岩見沢校 スポーツ・コーチング科学 運動生理学研究室

P-19 高齢者の集団的持久運動セッション前後の血圧応答
―陸上運動と水中運動の比較―

松井 健　追手門学院大学

P-20 ユースサッカー選手の体力及びドリブル技術と認知機能との関係

東浦 拓郎　亜細亜大学 国際関係学部

P-21 昼間の短時間仮眠は認知機能や運動パフォーマンスに影響を及ぼすか

金田 健史　白鷗大学 教育学部

P-22 涙液を用いた運動時の乳酸測定の可能性について

髙橋 咲貴　ハウス食品グループ本社株式会社 研究開発本部

P-23 体罰運動モデルの作成：
社会的ストレスを伴う運動が脳機能に及ぼす影響の解明をめざして

下田 みさ　東京都立大学大学院 人間健康科学研究科

P-24 同主観的運動強度でのウォーキングサッカーとウォーキングにおける
生理学的運動強度

坂本 慶子　愛知学院大学 健康科学部

P-25 カフェイン摂取が
血糖値および5分間全力自転車運動パフォーマンスに与える影響

丹治 史弥　東海大学 体育学部 競技スポーツ学科

P-26 Effects of resistance exercise on appetite, food preferences, and energy intake across menstrual cycle phases

Liu Hungwen　National Taiwan Normal University Department of Physical Education and Sport Sciences

P-27 ボクシングアスリートに着目した入浴によるコンディショニング方法の模索

相澤 慧　東海大学大学院 体育学研究科 体育学専攻

P-28 軽度な高気圧酸素環境が cardiotoxin 誘発性筋損傷の回復過程へ及ぼす影響

竹村 藍　立命館大学 スポーツ健康科学部

P-29 肥満マウスの体重減少および耐糖能改善に対する
持久的運動とアリルイソチオシアネート投与の併用効果

都築 孝允　名城大学 薬学部 生理学研究室

P-30 一過的な持久性運動後の腓腹筋由来単離筋線維シグナル応答は
筋組織全体のシグナル応答を必ずしも反映しない

上道 和毅　立命館大学、日本学術振興会

P-31 レナラーゼ遺伝子欠損が高強度運動時の骨格筋シグナル伝達に与える影響

加藤 優里　筑波大学、日本学術振興会

P-32 筋電気刺激による筋収縮回数の違いがラット腓腹筋へ及ぼす影響

谷 啓嗣　日本体育大学

P-33 バスケットボールフリースローシュート時の言葉かけが
パフォーマンスに及ぼす影響

小川 幸代　東京国際大学 人間社会学部

P-34 バドミントンバックハンドサービス前の脳波緩電位変動と視線の測定

麓 正樹　東京国際大学 人間社会学部

大会長講演

特 別 講 演

教 育 講 演

シンポジウム

キーノートレクチャー

一般演題・口頭発表